

NOBLESSE OBLIGE

◆読書習慣を考える

本校は読書習慣を定着させる目的で、毎朝30分間の自由読書の時間を校時程に組み込んでいます。

生徒諸君はそれぞれに好みの書籍を購入したり、あるいは図書室からの貸出しで朝の読書の時間を楽しみながら、すっかり毎日のルーティーンとして定着しているようです。

読書の具体的教育効果としては先ず集中力の向上が挙げられますが、こちらが意図した以上の効果があがっているように思えます。あくまでも自由読書が前提であり、書籍の選定は最低限(雑誌・漫画の類は不可等)の制約のみでそれぞれが好みの図書を選定しています。

書籍の一般的な傾向としては今のところ圧倒的に小説が多く、それも所謂、古典の類はごく少数であり、中学・高校生向けの小説がほとんどです。評論に至ってはほぼ皆無の状況です。

◆推薦入試や新テストを想定した戦略的な読書習慣の定着

マスコミによって巷間言われています児童生徒の「活字離れ」は少なくとも本校では全く感じられません。

読書の時間は自分の未知の世界の扉を開く楽しい時間です。あまり恣意的に特定の読書傾向に誘導することは好ましくないのですが、大学入試まであと実質4年となった今、そろそろ進路実現のための総合的な諸方策の中に読書を組み込んでゆく事は、決して早過ぎるということはないはずです。

当学年の生徒諸君は知的な興味の対象も今後ますます多様化してゆくでしょう。読書を通して、元々興味のある分野を更に深化させてゆく事も可能ですし、また逆にこれまで全く興味の対象外であった事象に対して果敢にチャレンジしてゆく事も読書の世界では比較的容易です。要は生徒さん自身がこれまで通り胸をわくわくさせながら楽しんで読書をしていたその気持ちはそのままに、より多様化した、より高次の読書傾向に自然に移行してゆく事が出来ればそれに越したことはありません。

ここで新2年生に《新書》への挑戦を提案します。下の写真をご覧ください。《新書》とは文庫本の『嵐が丘』の右側にある薄めの本7冊(『コメを考える』から『カント入門』まで)が《新書》とよばれるものです。横幅は文庫本と同じですが、少し縦長サイズです。(※裏面へと続く)



内容からいうと、《文庫》は小説が中心ですが、《新書》は歴史・地理・政治・経済・科学・心理学・文化・芸術など学問的な本(本格的な学術書より易しめ)や実用書、エッセイなどです。最近では空前の新書ブームで近隣のカーリーノ1・2階の蔦屋(ツタヤ)書店でも新書売り場が年々拡大しています。

「《新書》への挑戦」、もしくは「～切り替え」といってもあまり堅苦しく考える必要はありません。要は単純に自分が興味を持っている事項をテーマにしている本を購入、もしくは借りればいいのです。

例えば戦国マニアで「織田信長」について知りたかったら関連の新書だけでおそらく30～40冊は下らないでしょう。食べ物、例えば「ラーメン」が好きな人だったらその関連本、「臓器移植」に興味があったらその本、それぞれいくらかでも店頭並び、また本校の図書館にも多数書棚に並んでいます。

《新書》の良いところは、程度の差、アプローチの方向性の差こそあれ、いずれも「論文・評論形式」で記述されているところです。現在のセンター試験【国語】は200点満点中「評論」が確実に50点分、受験生が比較的得意にしている(ただし得点力が高いとは限らない)「小説」50点とウエイトは一緒です。さらに現在の中学3年生から施行される「新テスト」においても、今後ますます論理的思考が試される内容が導入されます。

毎日、読書に親しみ、知的欲求が満たされてゆく充実感を感じ始めている今だからこそ、ここは少し良い意味で背伸びをして論文・評論形式の《新書》にチャレンジしてみるのはいかがでしょうか?!!

文責 中2学年主任 緒方浩朗